

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500887

研究課題名(和文)対話型アプローチに基づく保育研修プログラムの開発と評価法の検討

研究課題名(英文)A study of training programs and their evaluation for nursery teachers based on group dialogues approach

研究代表者

音山 若穂(OTOYAMA, WAKAHO)

群馬大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：40331300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ホールシステム・アプローチによる集団的対話をベースにして、保育者養成校および保育現場で活用できる保育研修プログラムの開発と実践、評価法の検討を行った。World Cafeを活用した研修・演習プログラムを中心に、現職の保育者対象の研修会、学生を対象とした実習指導や演習、子育てや教育に関する地域での対話において実践を行なった。保育者省察尺度、集団雰囲気尺度などを用いた事前-事後評価では、実施後の得点が高く示され、一定の効果があったことが示された。

研究成果の概要(英文)：This study examines the training programs for nursery teachers and students that can be utilized in working nurseries and training schools for nursery teachers based on group dialogues in support of a whole system approach.

Training and practical exercise programs making use of World Cafe were implemented in workshops for working nursery school teachers and practical guidance and training exercises for students, as well as in local-level dialogues pertaining to child-rearing and education. Evaluations carried out beforehand and afterward using assessment tools that included a Reflection Scale for Nursery Teachers and a Group Atmosphere Scale showed higher scores after implementation, demonstrating a certain degree of effectiveness.

研究分野：教育社会心理学

キーワード：保育・子育て 対話型アプローチ 保育研修

1. 研究開始当初の背景

今日、保育現場においては、職員の資質向上を目的とした園内外の研修の重要性が強調されており、とりわけ保育者が“共に学ぶ合うこと”の重要性が注目されてきている。保育の専門職像として「反省的实践家」がしばしば取り上げられるように、自らの日々の保育の“振り返り (reflection)”を行う能力は、保育者として不可欠な資質と考えられており、振り返りを通して浮かび上がった課題が、個々の保育者の研修課題や、園の課題へと集約され組織的な取組へと繋がるものとなりうる。

このことは養成課程の学生についても同様であり、特に実習指導において自らの実習体験の振り返りが重要な教育課題となっている。すなわち、共に学び合い振り返りを行う能力をいかに醸成するかは、現職研修や養成課程の主要なテーマのひとつでもあるという現状がある。

しかしながら、自らの体験をもとに“振り返り”を促す学習は必ずしも容易ではない。自ら体験したエピソードを想起し、整理したうえで、客観的に捉え直しながら解釈していくその一連の作業には、必然的に時間が掛かり、学習の内容やレベルに差が出やすく、他者からの客観的な視点を入れないと考えが広がらないことも多い。実際、保育研修においても、一人ひとりの実践を振り返る十分な時間が持たず、自らの実践に指導・コメントをもらうことが少なかったり、園外での研修は日程調整や時間の確保が難しかったりと、身近なメンバー同士で、効果的に進められる研修方法が求められてきた。

そうした中で、和田ら(2010)は近年、組織管理や人材開発などの分野で注目されているホールシステム・アプローチに着目し、これを保育現場や保育者養成への学びに適用することを提案している。

ホールシステム・アプローチとは、メンバーが一同に会してテーマに従った対話 (dialogue) を重ねることで、組織が抱える課題を発見し、解決方法の探索を促すための、いくつかの話し合いの手法を指している。同時に、対話による学習を繰り返すことによって、メンバー自身の変容 (成長) が促されるという側面もある。

そこで筆者らは、組織変革を由来とするこうした手法を、組織課題の解決だけでなく、個人課題の発見と解決のプロセスや、省察力を高める学習場面に応用し、保育者の学びとして実践する試みを行うこととした。特徴として、省察型研修の性格がより強く、課題発見、すなわち「自分たちが何を学ぶべきなのか (どのように変わることが求められているのか)」を発見することも主要なテーマとなること、会話とその共有が中心で、必ずしもワークを必要としないこと、個別の園課題だけでなく、養成段階を含めた教育・保育のさまざまな場面に広く適用可能な基盤

となる話し合いの手法の開発を目指すこと、といった特徴があり集団的な対話と、対話を通じた省察に焦点が当てられているものである。筆者らは、こうした試み、すなわち保育における対話を中心とした参加者同士の学び合いの一連の手法を、「対話型アプローチ」と位置づけることとした。

2. 研究の目的

本研究では、園内研修の実態と研修ニーズの把握と、対話型アプローチによる研修プログラムの開発および実践、評価法の開発と実証的検討の3つを目的に設定した。

(1) 園内研修の実態と研修ニーズの把握

保育現場を対象とした調査により、現在行っている園内研修、とりわけ対話型研修の実態や、現在未達成の内容、今後期待される内容等について把握することで、対話型アプローチによる研修プログラムの開発の基本的な方向性を探ることを目的とした。

(2) 対話型アプローチによる研修プログラムの開発および実践

現職の保育者を対象として、World Caféを始めとする対話型アプローチを活用した研修を開発、実践することを目的とした。同時に“将来の保育者”である保育者養成校の学生を対象に、授業や実習指導においても同様の対話型のプログラムによる実践を行うことを目的とした。さらに、次のステップとして、保育者や学生が、将来は自らがファシリテーターとなって対話型の研修を運営することができるよう、対話の進め方やテーマの決め方などについても分かりやすくまとめることも目的とした。

(3) 評価法の開発と実証的検討

対話型アプローチに基づく保育研修や養成課程での学習の成果については、現在のところ十分な評価手法が確立されていない。そこで本研究では、質問紙調査や、参加者の自由記述の内容分析などにより、研修の効果を多角的に捉えうる評価法の開発を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 園内研修の実態と研修ニーズの把握

A 県内の主任保育士研修会の参加者を対象として、園内研修についての対話型アプローチによる話し合いに続いて、各自が所属する園での園内研修の状況等について問う自由記述による調査を行った。

一法人内の保育所職員合同で継続的に実施された研修回において、参加者が記したワークシートの内容分析から、自分自身、および自らの園についての課題意識を探った。

(2) 対話型アプローチによる研修プログラムの開発および実践

World Caféを始めとするホールシステム・アプローチの諸手法を取り入れながら、保育現場や養成課程の実態に合わせたプログラムの開発を行なった。

上記により開発したプログラムを、現職の保育者を対象とした研修、養成課程の学生を対象とした実習指導や演習、地域の教育力向上を目的とした実践のそれぞれにおいて実践を行った。

(3) 評価法の開発と実証的検討

対話型アプローチの効果については、杉村ら(2006,2009)の保育者省察尺度、木本(2011)の集団雰囲気尺度を始めとする自記式評定尺度を用いて実践の前後で測定を行ない、その変化を検討した。

保育をテーマとした対話の成果について、養成課程から現職まで継続的な比較を可能とするため、保育者省察尺度について学生を対象にデータ収集を行ない、妥当性を検討した。

4. 研究成果

(1) 園内研修の実態と研修ニーズの把握

A 県内の主任保育士研修会の参加者対象調査：「現在行っている園内研修での研修内容」については、全ての職員で行うものは保育内容、行事、危機管理、事例検討等が、一部の職員のみで行うものについては気になるこの対応、子どもの発達・園児の様子、危機管理等が多く挙げられた。「現在は実施していないが、今後園内研修で行ってみたい内容」については、対話型研修をはじめ、「保育内容・すぐに役立つ研修」、「年齢別研修」、「他クラスの保育参観」などが挙げられた。園内研修の年間実施回数では、月1回程度が多く見受けられた。「園内研修を満足させるために必要なものは何か」については、時間や負担に関する内容と、雰囲気づくり、コミュニケーション、共通理解に関する内容多く挙げられた。「対話型研修の可能性」については、自由でオープンな雰囲気や、多様なアイデアの共有、年齢や立場を超えた対話など、カフェの利点が反映された内容が多く挙げられた一方で、テーマの難しさや、時間的制約や全体で行うことの困難さを指摘した内容もみられた。「今後、園内研修のために工夫したいこと」についても、雰囲気や場づくり、テーマ設定のほか、研修時間の確保や、研修の進め方に関する内容もみられた。

継続的に行われた保育カンファレンス研修の参加者対象の調査：保育者がファシリテーターを務めて発表を行う研修を通して、より研修の進め方や内容に関する記述、研修と実践に関する記述が出てきていることから、学んだ内容とそれを活かした実践を行っていくことによる保育場面での気づき、課題の発見があったと考えられた。また、園ごとの記述の分析から、カンファレンスの進め方、エピソード記録の取り方、保育の質向上、職員間の対話が多く記述されていることから研修を通して共通して意識していたことが明らかになった。一方で、多忙な中で中々保育所内の職員が対話をするのが難しい状況にあるなどの共通点が示唆された。

(2) 対話型アプローチによる研修プログラムの開発および実践

プログラム開発

これまで筆者らは、World Café を活用したプログラムを中心に実践を進めてきた。しかしこの手法は全員が一同に会して座席移動を繰り返しながらグループ単位での対話を行うため、園内研修など現職の保育者を対象とした研修においては、十分な研修時間が確保できなかったり、少人数で行う場合には必ずしも適切な手法であるとは限らないという実情が浮かび上がってきた。また、養成課程における演習や実習指導においては、個々の会話時間が必ずしも保証されておらず、経験や考えが十分に語られ受け止められずに終わる可能性があること、経験や振り返りの質によって学習内容やレベルに差が出やすいことなどの課題があることが明らかとなった。

そこで本研究では、World Café と同様にホールシステム・アプローチの一手法であるAI (Appreciative Inquiry) の中から、ミニ・インタビュー(ハイポイント・インタビュー)のセッションを参考に、2人1組の対話をベースとする研修プログラムを検討した。一定の時間を要する対話とその内容のまとめの段階においては、全員が一同に会することなく、2人1組で行うことができるため、園内研修のように時間が限られた状況や、少人数であっても実践でき、かつ、個人の能力や経験の違いに合わせた対話を行いやすいプログラムを目指して開発したものである。

一方、現職の保育研修においては、集団での話し合いにとどまらず、最新の科学的知見や社会動向の習得や、専門性の高いケース検討など、適切な知識や情報を組織外から取り入れることが求められることもある。そこで、組織にどのような研修ニーズがあるのかをアセスメントした上で、対話型アプローチを中心としながら、課題解決型のプロジェクト学習による研修も期待される。そこで実際に一法人内の複数の保育施設を対象とし、組織および個人のニーズのアセスメントとニーズに合わせた研修プログラムの試案を作成した。

また、養成課程の演習においても同様に、課題解決型の学習が求められているという実情をふまえ、古屋ら(2013)による訓練プログラムのうち、後半の対話型アプローチをベースとしながら、保育者養成課程の学習内容に合わせて演習案を作成し、その試行を行った。以下の実践例で紹介する。

プログラム実践

本研究のフィールドは、現職の保育者対象の研修会、学生を対象とした実習指導や演習等、地域における実践に分けられる。

現職の保育者対象の研修会については、World Café を活用した実践と、継続的カンフ

ァレンスによる課題解決型のプロジェクト学習を行った実践が挙げられる。

学生を対象とした実習指導や演習においては、World Caféを活用した実践、AIミニ・インタビューを活用した実践、課題解決型学習などの演習等が挙げられる。また、保育者養成とは異なるが、教職大学院における「特別活動指導の課題と実践」の授業テーマとして対話型アプローチを取り上げ、中学校での実践を行った例を紹介した。

地域における実践については、地域での家庭教育セミナーの参加者、および学生が参加し積極的に関与して行われる地域交流事業の実践を対象にWorld Caféを活用した実践を行った。

上記以外にも、筆者らはこれまで、教育・保育のさまざまな領域において対話型アプローチの実践を進めてきた。それらは上村ら(2015)において概観している。

(3) 評価法の開発と実証的検討

対話型アプローチの効果

第1に、World Caféを活用した実践において、学生を対象とした先行研究では、保育者省察尺度、階層的コミットメント尺度、集団雰囲気尺度を用いてカフェの実施前後で参加者に評価させており、保育者省察尺度のうち「保育者自身」「子どもの考慮」「他者との交流」、および集団雰囲気尺度において、いずれもCafé後には有意に得点が上昇した。本研究における三浦らの実践では、保育者省察尺度と集団雰囲気では事後に得点が上昇し、先行研究と同じ結果となった。一方、階層的コミットメント尺度では「専門職への志向」のみが有意となり、先行研究とは異なった。なお、三浦らは無記名の質問紙調査でこの結果を得ており、データの対応を取らずに平均値比較をした場合においても、有意差が認められている点特徴である。

また、Café実施前後で保育者効力感と感情状態とを測定した別の実践では、Café実施後では保育者効力感が高まり、「保育の仕事に向いている」と感じ、感情状態においてもポジティブな変化が示された。

以上は学生を対象としているが、現職の保育者などを対象にWorld Caféを活用した実践においても、保育者や養成校教員を対象に4つの実践を行い、保育者省察尺度と集団雰囲気尺度を測定し、おおむね学生と共通した結果を得ている。また、地域における実践においては、Café後には集団雰囲気尺度の得点が上昇し、肯定的な自己評価が多く、対話内容の「リフレクション」に関する項目に年齢差が認められ、成長した子を持つ親世代と、若い世代とは質的に違った視点を持ちながら対話に臨んでいることが伺われた。また、カフェ事後評価項目と相互独立的・相互協調的自己観との間にも関連が示唆された。

第2に、古屋ら(2013)による訓練プログラムの効果については、TEGやコミュニケーション

不安尺度、リーダーシップ効力感尺度、ビッグ5生活特性尺度により測定し検討した。その結果、TEGについてはNPFC尺度得点が向上し、AC尺度得点が低下することが示され、先行研究をほぼ再現する結果となった。また、5場面各4項目計20項目からなるコミュニケーション不安尺度では、対初対面、スピーチ、大集団内、小集団内場面の4つの場面の下位尺度得点で訓練前後の有意な変化が認められ、いずれも訓練後では得点が低下していた。リーダーシップ効力感尺度はP行動とM行動それぞれに関する10項目からなり、いずれも訓練後では得点が向上した。ビッグ5性格特性尺度では有意な変化はみられなかった。以上の結果は保育をテーマとしたものではないが、課題解決型の学習を進める上での評価指標の一つとなりうると思われる。今後の課題として、保育者養成課程や、現職におけるプロジェクト型の研修での実践を通して測定を行ない、妥当性を検討していくことが求められるであろう。

第3に、AIミニ・インタビューを活用した実践においては、保育者省察尺度の測定が試みられており、対話の自己評価が高い群では省察尺度の得点も高い結果が得られてはいるものの、事例が少なく、いまだ十分な根拠とはなっていない。AIミニ・インタビューの実践データについては今後の蓄積が期待されるとともに、現職保育士を対象としたAIの実践研究については未着手である。これらについても今後の課題である。

保育をテーマとした対話の成果

保育者省察尺度について学生を対象にデータ収集を行ない、構造的妥当性を検討した。杉村ら(2009)と同様の手続きによる因子分析の結果、因子パターンは、「保育者としての信念」に関する項目などに一部の相違がみられるものの、おおむね杉村らに一致していることが明らかとなった。また、旧版の尺度(2006)による比較であるが、学生と現職間の比較では、「保育者自身に関する省察」と「子どもに関する省察」の合計得点、および「自分の長所・短所を踏まえながら保育を行う」、「保育とはどういうことか考える」、「子どもの言動に気をつける」、「あらかじめ子どもの行動や態度を予測しておく」などの項目で学生に比べ現職の得点が高いことが示された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計16件)

- 1 音山若穂, 井上孝之, 利根川智子, 上村裕樹, 河合規仁, 和田明人, 対話型アプローチによる保育研修に関する基礎研究, 群馬大学教育実践研究, 査読無, 30, 2013, 211-220.
- 2 音山若穂, 古屋健, 懸川武史, 心理教育的集団リーダーシップ訓練の試み(2)-授業前後におけるTEG項目の変化-, 群馬大

- 学教育学部紀要 人文・社会科学編, 査読無, 62, 2013, 169-178.
- 3 三浦主博, 音山若穂, 藤本このみ, 保育実習指導への対話的アプローチ導入の試み, 東北生活文化大学・東北生活文化短期大学部紀要, 査読無, 43, 2012, 115-122.
 - 4 利根川智子, 音山若穂, 和田明人, 三浦主博, 井上孝之, 滝田良子, 上村裕樹, 保育者省察尺度の妥当性検討についての一研究, 会津大学短期大学部研究紀要, 査読無, 70, 2013, 39-64.
 - 5 音山若穂, 古屋健, 懸川武史, 心理教育的集団リーダーシップ訓練の試み(6) - AI ミニインタビューによる授業・研修プログラム試案 -, 査読無, 立正大学心理学研究所紀要, 12, 2014, 65-75.
 - 6 古屋健, 音山若穂, 懸川武史, 心理教育的集団リーダーシップ訓練の試み(5) - 自記式評定尺度による訓練効果の評価 -, 立正大学心理学研究年報, 査読無, 5, 2014, 27-36.
 - 7 音山若穂, 懸川武史, 久保田純一, 市村武文, 対話型アプローチによる特別活動の実践の試み - 教職大学院「特別活動の課題と実践」を通して -, 群馬大学教育実践研究, 査読無, 31, 2014, 185-196.
 - 8 利根川智子, 和田明人, 音山若穂, 上村裕樹, 継続的カンファランスで対話を重ねることによる保育者の意識の変化, 会津大学短期大学部研究紀要, 査読無, 71, 2014, 33-59.
 - 9 上村裕樹, 音山若穂, 和田明人, 利根川智子, 保育者養成学生の継続的学習意識の獲得に向けた問題解決型学習の試行, 帯広大谷短期大学紀要, 査読無, 51, 2014, 17-26.
 - 10 織田栄子, 教職実践演習におけるグループアプローチの活用と効果について, 聖霊女子短期大学紀要, 査読無, 41, 2013, 58-69.
 - 11 三浦主博, 音山若穂, 井上孝之, 対話型アプローチによる学生参加型地域交流事業の実践, 東北生活文化大学 東北生活文化短期大学部紀要, 査読無, 45, 2014, 91-97.
 - 12 織田栄子, 保育者養成における童話作成を取り入れた演習授業について - 完成者と未完成者の心理的特徴の比較から -, 聖霊女子短期大学紀要, 査読無, 42, 2014, 46-56.
 - 13 利根川智子, 和田明人, 音山若穂, 三浦主博, 上村裕樹, 継続的カンファランスの参加における保育者の課題意識, 東北福祉大学研究紀要, 査読無, 39, 2015, 37-47.
 - 14 上村裕樹, 音山若穂, 井上孝之, 三浦主博, 和田明人, 織田栄子, 京免徹雄, 利根川智子, 教育・保育における対話型アプローチの取組み, 帯広大谷短期大学紀要, 査読無, 52, 19-29.
 - 15 音山若穂, 利根川智子, 三浦主博, 教育・保育における対話型アプローチ:現状と課題, 群馬大学教育実践研究, 査読無, 32, 2015, 227-237.
 - 16 織田栄子, 保育者養成における童話作成を取り入れた演習授業について - 完成者と未完成者の心理的特徴の比較から(2) -, 聖霊女子短期大学紀要, 査読無, 43, 72-82.
- 〔学会発表〕(計 20 件)
- 1 Wakaho OTOYAMA and Takayuki INOUE, A study on effectiveness of a group dialogue approach for nursery teacher education, Pacific Early Childhood Education Research Association 13th Annual Conference, National Institute of Education, Singapore, 2012 年 7 月 21 日, TR-711(Pp192-193).
 - 2 Takayuki INOUE and Wakaho OTOYAMA, A study on effectiveness of a group dialogue approach for in-service training of nursery teacher, Pacific Early Childhood Education Research Association 13th Annual Conference, National Institute of Education, Singapore, 2012 年 7 月 21 日, TR-711(p193).
 - 3 音山若穂, 井上孝之, 三浦主博, 利根川智子, 上村裕樹, 河合規仁, 和田明人, 安藤節子, 現任保育士の園外研修における対話的アプローチの研修効果 実習生と現任保育士との比較, 日本教育心理学会第 54 回総会, 琉球大学千原キャンパス, 2012 年 11 月 23 日, PC-003(p240).
 - 4 音山若穂, 保育実習指導におけるワールドカフェの導入の一効果, 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学, 2012 年 9 月 13 日, 3PMD05.
 - 5 音山若穂, 利根川智子, 対話型アプローチにおける保育者の省察評価尺度の検討 現職者と学生との間での保育者省察尺度の尺度得点の比較, 日本保育学会第 66 回大会, 中村学園大学・中村学園短期大学, 2013 年 5 月 12 日, PD-073(p913).
 - 6 上村裕樹, 利根川智子, 音山若穂, 学生を対象としたワールドカフェの効果測定のための評価尺度の検討(1) 学生における保育者省察尺度の構造, 日本保育学会第 66 回大会, 中村学園大学・中村学園短期大学, 2013 年 5 月 12 日, PD-100(p940).
 - 7 利根川智子, 上村裕樹, 音山若穂, 学生を対象としたワールドカフェの効果測定のための評価尺度の検討(2) 現職者対象アンケートからみた保育者としての成長のポイント, 日本保育学会第 66 回大会, 中村学園大学・中村学園短期大学, 2013 年 5 月 12 日, PD-101(p941).
 - 8 音山若穂, 利根川智子, 三浦主博, 井上孝

- 之, 織田栄子, 学生を対象とした保育者省察尺度の構造的妥当性の検討, 日本教育心理学会第 55 回総会, 法政大学, 2013 年 8 月 18 日, PE-015(p378).
- 9 利根川智子, 音山若穂, 滝田良子, 馬場廣明, ワールドカフェによる”子どもを育む地域実践プロジェクト”の学び支援, 日本教育心理学会第 55 回総会, 法政大学, 2013 年 8 月 18 日, PF-059(p511).
- 10 利根川智子, 音山若穂, 上村裕樹, 地域家庭教育セミナーにおけるワールドカフェの一効果(1) - ワールドカフェの事後評価の分析と年齢差の検討 -, 日本心理学会第 77 回大会, 札幌コンベンションセンター, 2013 年 9 月 20 日, 2AM-114(p1100).
- 11 音山若穂, 利根川智子, 上村裕樹, 地域家庭教育セミナーにおけるワールドカフェの一効果(2) 相互独立的・相互協調的自己観とワールドカフェの事後評価との関係 -, 日本心理学会第 77 回大会, 札幌コンベンションセンター, 2013 年 9 月 20 日, 2EV-103(p1135).
- 12 音山若穂, 利根川智子, 三浦主博, 井上孝之, 対話型アプローチを取り入れた演習プログラムの一試案 - AI(Appreciative Inquiry)によるミニ・インタビュー -, 日本保育学会第 67 回大会発表要旨集, 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学, 2014 年 5 月 17 日, P152006C(p653).
- 13 利根川智子, 和田明人, 音山若穂, 2014 対話型アプローチによる現職者を対象とした保育研修プログラムの一試案, 日本保育学会第 67 回大会発表要旨集, 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学, 2014 年 5 月 17 日, P141107C(p481).
- 14 音山若穂, 利根川智子, 三浦主博, 織田栄子, 井上孝之, 2014 学生を対象とした保育者省察尺度の構造的妥当性の検討(2), 日本教育心理学会第 56 回総会, 神戸国際会議場, 2014 年 11 月 8 日, PF092(p736).
- 15 三浦主博, 上村裕樹, 利根川智子, 音山若穂, 井上孝之, 現職・地域・養成の連携基盤としての対話アプローチの提案, 日本保育学会第 68 回大会(椋山女学園大学), 2015 年 5 月 10 日, 22083.
- 16 上村裕樹, 利根川智子, 三浦主博, 音山若穂, 2015 学生を対象としたワールド・カフェの評価尺度の検討(3), 日本保育学会第 68 回大会(椋山女学園大学), 2015 年 5 月 10 日, 22087.
- 17 利根川智子, 和田明人, 上村裕樹, 井上孝之, 2015 継続的カンファレンスにおける保育者の意識変化, 日本保育学会第 68 回大会(椋山女学園大学), 2015 年 5 月 10 日, 21090.
- 18 利根川智子, 音山若穂, 三浦主博, 井上孝之, 織田栄子, 上村裕樹, 保育者養成における学生の省察力育成の試み(1) - AIミニ・インタビュー -, 日本教育心理学会第 57 回総会, 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター), 2015, 発表予定.
- 19 音山若穂, 利根川智子, 三浦主博, 井上孝之, 織田栄子, 上村裕樹, 保育者養成における学生の省察力育成の試み(2) - 対話後の自己評価と省察尺度との関係 -, 日本教育心理学会第 57 回総会, 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター), 2015, 発表予定.
- 20 上村裕樹, 利根川智子, 三浦主博, 井上孝之, 織田栄子, 音山若穂, 保育者養成における学生の省察力と批判的思考態度との関連, 日本教育心理学会第 57 回総会, 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター), 2015, 発表予定.
- 〔その他〕(自主シンポジウム)
- 1 音山若穂, 井上孝之(企画者), 井上孝之, 利根川智子, 上村裕樹, 和田明人, 河合規仁, 賀門康博, 那須信樹, 志水陽子(話題提供者), 和田明人(指定討論者) 2013 対話型アプローチに基づく保育研修～学びの場づくりのためのラウンドテーブル～, 日本保育学会第 66 回大会, 中村学園大学・中村学園短期大学, J18(p140).
6. 研究組織
- (1)研究代表者
音山若穂 (OTOYAMA, Wakaho)
群馬大学・教育学研究科・准教授
研究者番号 40331300
- (2)研究分担者
古屋 健 (FURUYA, Takeshi)
立正大学・心理学部・教授
研究者番号 20173552
- 井上孝之 (INOUE, Takayuki)
岩手県立大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号 40381313
- (3)連携研究者
三浦 主博 (MIURA, Kimihiro)
東北生活文化大学短期大学部・生活文化学科・教授
研究者番号 70310183
- 利根川 智子 (TONEGAWA, Tomoko)
東北福祉大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号 1002757
- 上村 裕樹 (UEMURA, Hiroki)
帯広大谷短期大学・社会福祉科・准教授
研究者番号 90369265
- 織田 栄子 (ODA, Eiko)
聖霊女子短期大学・生活文化科・専任講師
研究者番号 00279499